

「駅体制の見直し」に関する申し入れ

～申2号 団体交渉①～

1. 輸送総括助役が担っている業務と役割；位置付けを明らかにすること。また、駅体制の見直しに伴い、駅全体の運転・運行関係業務の知識及び技術、安全・サービスレベルを低下させないこと。

会社回答：水戸駅輸送総括助役については、輸送業務の管理業務全般を担っている。なお、本施策によって効率的な業務遂行体制を構築し生産性の向上を図り、経営体質の抜本的強化につながると考えている。

組合

- 輸送総括助役の位置付け役割は。
- 輸送総括助役が行っている業務を明らかにすること。
- 多岐にわたる。全て輸送総括助役が対応してきたのか。
- 責任の所在が曖昧になる。
- 指揮命令系統を周知していくことで良いか。
- 社員に直接関わる助役の坦務についても周知すること。

会社

- ◆ 職場の規模、総体で配置している。今後、輸送助役でカバーできる。
- ◆ 安全指導のキーマン。入換業務、実行計画作成、訓練計画、ダイヤ改正作業、除草・融雪灯の点検・計画、線閉調整会議、イベント打合せ、無線局管理、人材育成等である。
- ◆ 管理者総体で対応する。
- ◆ 曖昧になるとはならない。最終的に責任者は駅長となる。坦務は明確にしていく
- ◆ はい。
- ◆ 周知していく。

2. 水戸駅における2019年度、2020年度の工臨入換の実績件数及び見直しとなる波動ダイヤの実績件数を明らかにすること。

会社回答：水戸駅における工臨入換実績は、2019年度は約100件、2020年度は約110件であり、波動ダイヤの指定実績は、2019年度は約130件、2020年度は約170件である。

- 2019、2020年度のレール実績は。
- 工臨入換以外にもC1、C2（波動の輸送業務）が発生するのか。
- C1、C2できる人が現在何人いるのか。
- 今後の新型碎石輸送車両の導入計画は。
- 波動を見直しても教育・訓練の充実度が下がることはないことで良いか。

- ◆ 2019年度はレール80件、碎石20件。2020年度はレールが70件、碎石40件。その他の入換が年100件位発生している。年間400件を想定して設定したが200件位になる。
- ◆ 発生することもある。
- ◆ 7名いる。必要な教育は行っている。
- ◆ 具体的には決まっていない。
- ◆ 見習い含めて吸収できる体制である。